

～ふる里の水と土に感謝して～

第17回 大師の里・彦左衛門の あじさいまつり 開催

多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協賛



水土里ネットみえのブース



スタンプを押すスタンプラリー参加者



スタンプラリー用紙

あじさいが咲き誇る多気郡多気町丹生の大師の里周辺で6月9日(日)午前9時から「第17回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開催されました。

「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに平成9年からスタートしたこのイベントも第17回を数え、当日は天候にも恵まれ、水銀と弘法大師「空海」ゆかりの地「丹生大師の里」で周辺を流れる立梅用水(水)・周辺の田んぼ(土)・1万本以上のあじさいが咲き乱れる緑豊かな資源空間(里)をまつりの舞台とした「水土里(みどり)の祭典」に町内外から約12,000人が集まり大勢の人でにぎわった。

オープニングセレモニーに続いて、あじさい姫の紹介、よさこいソーランフェスティバル、恒例の田んぼの綱引きなどが広い会場のあちらこちらで行われ、とりわけ途中手堀りのノミ跡が残るトンネルを抜ける立梅用水路の「ボート下り」は待ち時間が出るほどの大盛況であった。

水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、今年は趣向を変え「あじさいの小径スタンプラリー」として会場内4ヶ所のポイントでスタンプを押してもらい、本会の愛称「みどりねっとみえ」を完成させることで、本会の愛称を啓発するものとし、スタンプラリーに参加した800人ほどのお年寄りから子どもに大盛況の中「水土里ネットみえ」の愛称を覚えてもらった。最後にスタンプラリーを完成させた参加者に花の種子をプレゼントし、参加者は笑顔で好みの種子を選んでいった。

また、「田んぼの綱引き大会」では参加したチームの士気を高めようと本年度も引き続き本会より「水土里ネットみえ会長賞」を設け、優秀な成績を収めたチームの栄誉を称えた。試合では町内外の老若男女ばかりでなく、海外からのチームも参加し、全身泥だらけになりながら熱戦を繰り広げ、周辺の観客も大いに盛り上がっていた。我が水土里ネットみえも毎年の1回戦ボーイを返上しようと強い意気込みのもと全力で綱を引いたが力及ばず今年も1回戦で善戦空しくで敗退。しかし、選手全員来年こそと雪辱に燃えていた。

他にも立梅用水路でのアマゴ釣り、うなぎつかみ、田んぼのコンサートなどいろいろな催し物や多くの団体が出店した特徴ある店々が軒を連ね、大にぎわいの1日であった。



綱引きで奮闘する我が水土里ネットみえ